

平成27年度 第2回三次市地域公共交通会議 会議録

平成27年8月26日（水）

13時30分～15時00分

市役所 6階会議室

○開会

（事務局）

平成27年度第2回三次市地域公共交通会議をご案内しましたところ、委員の皆さまには大変お忙しい中、ご出席をいただきまして、ありがとうございます。

それでは、只今から三次市地域公共交通会議を開催させていただきます。開会にあたりまして、本会議の会長でございます瀬崎副市長から挨拶をお願いいたします。

○会長あいさつ

（会長）

大変お忙しい中、この本会議にお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。今日は第2回三次市地域公共交通会議ということですが、本年度は地域公共交通網形成計画を策定するという事が最大のミッションになろうかと思えます。

私事で恐縮ですが、今現在、副市長をやっており、地域の方のご意見を聞くために、全部で市内約40ヶ所を回っていくといった取り組みを続けていますが、そのような中でも相当に地域の公共交通に関するご関心が強いなということを行く度に感じております。ただ、たくさん意見をいただくわけですが、その意見の方向というものは本当にみなさんマチマチでございまして、例えば地域からお店が消える中でぜひ買い物とかに行くのに公共交通が必要だと言うお話もいただきますし、今地域の人口減少対策ということで皆人口を増やそう、若い人を呼び込もうとしている訳でございまして、そういった中でやはり小中学校、それから一番は高校生が通えるような手段がほしいという声もたくさんいただきます。それから、自分達が市役所などは頻繁には行かないけれども、市の中央に行くような便も残して欲しい、そういったお話がある一方で、人があんまり乗ってないじゃないかとか、相当利便性が悪いとか、また運転ができなくなるくらい足が弱っているんだったら、バス停にも行けないからコミュニティバスの利用もあまりないよ、というようなお話もいただくところもございまして、大変難しい問題であると改めて痛感した次第でございまして。

本日、この会議にご出席いただいております地域の方、学識者の方、関係機関の方、それぞれの立場を代表してご意見をいただくわけですが、ぜひ忌憚のない活発な議論をお願いしたいと思います。どうぞよろしく申し上げます。

○連絡事項

（事務局）

ありがとうございました。それでは本日の会議資料ですが、事前に配布をさせていただいたところがございますけど、追加資料等もございまして、お手元の方へ改めて配布をさせていただいております。

本日の委員の欠席でございます。東河内町の近藤委員、三次社会福祉協議会の三上事務局長、三次市広域商工会の湯藤事務局長よりそれぞれ欠席の連絡をいただいております。それから代理出席でございますが、中国運輸局広島運輸支局の平賀委員の代理として櫻井様にご出席をいただいております。広島

県地域創造地域力創造課の木村委員の代理として杉田様にご出席をいただいております。三次警察署の武田委員のかわりに守谷様にご出席をいただいております。

本会議は原則公開としております。報道関係等の傍聴、また会議資料等の質疑応答等の会議録につきましては市のホームページで公開をさせていただきますので、ご了解ください。なお、本会議は要綱第7条の定めにおきまして、会長が議長となりますので、これからの議事進行につきましては瀬崎会長にお願いします。よろしくお願いいたします。

○報告事項

(会長)

それでは議事に入りますが、本日の会議につきましては15時までを予定しておりますので、委員の皆さまのご協力、よろしくお願いいたします。

早速でございますが、次第の3の報告事項から事務局から説明をお願いします。

《(1) 三次市地域公共交通会議委員の交代について》

(事務局)

三次市地域公共交通会議委員の交代について説明させていただきます。委員の名簿につきまして、資料の1ページに一覧表を掲載しております。7月6日の人事異動に伴いまして、地域振興部長が福永から白石に交代いたしました。白石委員からご挨拶をお願いします。

(白石委員)

それでは失礼いたします。今紹介がありましたが、7月6日の人事異動で参りました。以前は教育次長でしたが、この度地域振興部長として着任しております。この会議は、今年は2回目ということですが、私は初めての出席ですので、どうぞよろしくお願いいたします。

(事務局)

ありがとうございました。また、本日オブザーバーとしてJR三次駅の佐々木鉄道部長にご出席いただいております。佐々木部長は今年7月の人事異動に伴いまして、三次鉄道部長に就任されました。今後ともよろしくお願いいたします。ご挨拶をお願いします。

(佐々木オブザーバー)

三次鉄道部長の佐々木でございます。前任の前田部長に代わりまして、7月1日より着任をいたしました。私は安佐北区の出身でございます。庄原・三次の方は地理感がまだ分かりませんが、三次駅を市の玄関口として駅舎等も綺麗にさせていただきましたし、これから一生懸命地域のみなさんと一緒になって三次市を活性づけていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

それから昨日、台風の影響で、こちらの方は始発から運転見合わせ等ございましたが、今はいろいろ気象の変化、ゲリラ豪雨とかいろんなことがあります。特に台風接近時は、始発からの運転の見合わせをさせていただく、それは後で列車を停めてダイヤがガタガタになってはいけないということもあります。特に安全を最優先するためであります。昨日は福塩線の方で一部運転見合わせ等もありましたが、今後、大きな予想される災害においては早めに列車を止めるということもあります。どうぞご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。以上です。

《（２）布野町バスの乗り方教室について》

（事務局）

布野町バスの乗り方教室について報告いたします。それでは、[資料1](#)をご覧ください。

バスの乗り方教室は昨年度、君田町等で実施しましたが、今年度は6月29日に布野町生涯学習センターの駐車場で開催しました。

備北交通様にご協力いただいたところなのですが、内容としては、実際のバスに乗り込み、パスピーを利用した乗車体験や、車両の説明、バスの死角や車内事故の説明等を行っていただきました。参加者の皆さんにはバスを身近に感じていただける良いきっかけになったかと思えます。

（備北交通）

年に大体1回ずつ三次市内で開催させていただいております。布野町のバスの乗り方教室では、実際にバスを持ち込みまして、走行はしませんが、乗車体験で車内へ入ってもらったり、パスピーというICカードのご利用方法をお話ししたりして、ご理解をいただきました。（バスを）ご利用になっていない方がおられたということで、最近のバス車内であるとかパスピーの事も含めて、今こうなっているのかと驚かれたようですし、あと車イスの利用に関しましても、ノンステップということで、低い低床バスになっているということも新たに認識していただいたようです。ご利用が少ない中で、こうした部分をしっかり宣伝していきたいと思っておりますので、よろしくをお願いします。

（会長）

ありがとうございました。今までのところでご質問等ございませんでしょうか。

（委員）

布野町のバスの乗り方教室につきまして、ご質問させていただきます。これまでも君田とか（吉舎）小学校とかで実施され継続してきていると思うのですが、今回の布野町で行われた経緯は、備北交通さんのほうから働きかけられたのか、それとも地域の方から市等に要請があったのでしょうか。今後も展開するとき参考になるかなと思うので、その経緯について教えていただければと思います。

（事務局）

今回は、三次布野線の試行運行をこの4月からさせていただいているということもあり、行政側から依頼して、布野支所を中心に実施させていただいたというかたちです。

（会長）

毎年やられている中で布野町を選定した理由については分かりましたが、もともと実施されたきっかけというのは分かりますか。

（備北交通）

事業者としてもバスのPRをして、ご利用をいただくための一つの要因につながるように、市の方にご協力いただいて、学校や新たに路線を開設したところの地域に何うということで、だいたい年に1回ずつくらい三次市内で開催させていただいております。一般の方（を対象にしたもの）は昨年と今年、

以前は小学校のほうでやらせていただいていた。広くご利用いただけるように努力しております。

○協議事項

(会長)

次に議事の方に入らせていただきます。協議事項(1)について事務局から提案をお願いします。

《(1) 三次布野線の試行運転の現状と今後の方針について》

(事務局)

それでは資料2をご覧ください。

三次布野線の試行運行は、現在4月から9月までの半年間の計画で行っております。祝日を除いた月曜日から金曜日まで運行しており、19時に三次高校前のバス停を出発し、上布野のバス停に19時30分に到着後、備北交通の三次車庫に回送しています。

あくまでも試算の額ではありますが、運行費用は822,624円が見込まれ、運賃収入見込を差し引いた運行経費の見込み額は、636,144円となります。

利用状況についてですが、すでに運行の終わっている4月～7月の間で、平均74人の利用者があり、一便当たりの平均利用者数は3.7人となっています。この数字は、前回の交通会議において協議いただきました、事業計画で乗車人数の目安としていました1人以上の利用を満たしています。

また、平均乗車密度、これは始点の三次高校から終点の上布野バス停までの運賃570円を負担した人数を出したものですが、平均2.7人となっており、三次市地域公共交通総合連携計画で設定している路線バスの運行基準の平均乗車密度が2人以上という条件も満たしていることとなります。

利用者の内訳としましては、定期的な利用が三次高校、青陵高校、日彰館高校に通う高校生で、主には三次高校から伊木谷、三次駅から上布野までの利用がみられます。また、不定期ではありますが、一般客の利用もあり、三次駅から上布野や、三次市役所から下布野までの利用などが見られます。

より多くの方にご利用いただくために、布野支所を中心に広報活動を行っています。

今後の方針としてですが、定期的な利用があることから、平成28年3月末までの試行運行延長できればと考えております。そしてその後、引き続き定期的な利用が確保され、平均乗車密度の維持ができた場合は、定期路線として運行を行っていただければと考えております。以上です。

(会長)

ただいま説明がありましたが、いかがでございましょうか。初めての方もいらっしゃるかと思うのですが、経緯としては、赤名線の最終便の時間が少し繰り上がってしまったので、高校に通われる生徒さんの通学手段を確保するために半年間の期限で試行をしてきましたが、この結果を踏まえまして、引き続き年度末まで試行をさせていただきたいという事務局からの提案です。皆さん、ご意見いかがでしょうか。

今日は布野町からも委員がおみえになっていますが、ご意見等なにかありませんか。

(委員)

人数はそれほど伸びていないですが、数字が激減することはないと思います。もう少し継続していただきたいと思います。

(会長)

事務局からの話もありましたが、目標としております(平均乗車密度)2人以上はクリアしているということでございますので、このまま半年間継続ということでお願いしたいのですが、いかがでしょうか。

(委員：了承)

ありがとうございます。それでは、次の事項の、「(2)三次市地域公共交通網形成計画策定について」につきまして、事務局より提案をお願いします。

《(2)三次市地域公共交通網形成計画策定について》

(事務局)

三次市地域公共交通網形成計画の策定については、書面協議にて支援業務の業者決定を行ったところでございます。本日は委託業者、株式会社地域未来研究所中国四国事務所の田中所長にお越しいただいておりますので、ご紹介いたします。

(地域未来研究所)

地域未来研究所の田中と申します。精一杯御支援させていただきますので、よろしくお願いします。

(事務局)

地域未来研究所は前回の総合計画の策定支援も行っていただいております。田中さんには、後ほど補足説明を行っていただく予定でおりますので、よろしくお願いします。

計画策定に向けた業務の進め方についてご説明させていただきます。資料としては資料3と資料4になります。資料3の概要版として資料4を作っておりますので、こちらをご説明させていただきます。

1. 業務の基本的な考え方ですが、現状の公共交通の効率化や交通空白地域の解消につながる地域公共交通サービスの検討、持続可能な公共交通体系を確立するためバス路線等の評価基準の設定を行うとともに、本計画による住民自治組織と連携した生活移動支援、まちづくりの支援につながる交通施策の実現を目指します。

2. 業務の流れ、1) 現況把握及び問題抽出・検証・整理、①地域特性の整理 では、人口・高齢化の状況等のデータやまちづくり計画等の資料を用いて、本市における地域の現状や問題点、地域の将来像について整理を行います。

②交通特性の整理 では本市の交通に関するデータ、これは現状、特徴、問題点についてのデータですが、これらを集め、整理してまとめて分析を行います。

③市民等のニーズ把握、③-1住民組織ヒアリング調査 では、19の全住民自治組織を対象にヒアリング調査を実施します。③-2地域団体等ヒアリング調査では、地域のNPO団体へのヒアリング調査を行います。③-3関連機関へのヒアリング調査では、交通事業者5社、民生委員、医療機関5ヶ所程度になると思いますが、これらへのヒアリング調査により、地域の現状や交通問題等を把握します。③-4既存アンケート調査等の整理・分析 では、これまでに本市において実施した総合計画策定アンケート、都市計画マスタープランアンケート調査のうち、市民意識や日常生活実態などが確認できる調査結果を再整理し、市民生活に関する特徴や交通の満足度などを分析します。

続いて、④市街地循環バス「くるるん」利用者動向調査では、ルート変更後にヒアリング等の調査を行っていない「くるるん」の調査を行い、利用実態等を把握します。

1)ですが、2枚目のスケジュールを合わせてみていただくことでよろしいと思うのですが、1)については9月から11月というようなスケジュールを予定しております。

(会長)

資料3の下段のフロー図を使って、全体を簡単に説明した上で、細かいところを言うとよいと思うので、先に全体像を説明してもらえますか。

(事務局)

資料3の3に調査の流れがありますが、これに従って進めていくように考えています。今、説明しましたのが一番上の1) 現況把握、及び問題抽出・検証・整理です。次に、その現況課題の抽出を行います。その下の3)ですが、形成計画を検討し、その下の4)でパブリックコメントを実施。そして5)で、形成計画の策定、という流れの中で調査を行っていく予定です。

(会長)

第1回目の委員会で支援をしてくれる業者の発注の方向についてご承認をいただいて、業者が決まりました。それで、公共交通網形成計画という、コミュニティバスや路線バス、市内循環バスなどの路線構造をどうするのだという計画をたてるというのが目標です。それに対し、本市においては合併後だいたい10年くらい経過していますが、その合併前のそれぞれの町村で運行していたコミュニティバスなどを引き継いでいる状況であります。もう一度現状のニーズ、市民の皆さんがどんなことを望まれているかとか、どういう風にお考えとか、それから交通量のようなもの、乗られている方がどんな乗り方をされているかというふうなことをもう一度調査をしてみて、何が問題かを見つけ出し、それで計画を案として作っていく。それからパブリック・コメント、市民の皆様にご覧いただきながら計画案を作りましたがどうでしょう、とお伺いして、その結果を受けて最終的に形成計画を作る。その途中途中の段階において、三次市地域公共交通会議で検証を行って決定をしていただく。全体的にこういう流れでよろしいかか思います。

今回は、特に調査の仕方とか項目とかについては、急に言われてもなかなか意見も言いにくい所ではありますが、その内容についてご意見をいただきながら進めさせていただくために、資料4に基づいて事務局から説明した、というところでもあります。では、また2)から資料の説明をお願いします。

(事務局)

次に2) 現況課題の抽出です。現況把握の結果を踏まえ、地域の将来像等、まちづくりの視点を踏まえた上で、地域公共交通の維持・活性化に係る課題を抽出します。スケジュールでいえば、10月から12月を考えております。

3) 形成計画の検討、①現行計画の事業検証 ですが、「三次市地域公共交通総合連携計画」期間内の運行事業に対して、主に「経済性」「効率性」「有効性」の視点で検証・評価します。

②基本的な考え方・整備方針の検討 では、本市における将来に向けた地域づくりを前提として、市民生活を支援でき、かつ持続可能な地域公共交通網の形成に向けた基本的な考え方を検討します。本市

の将来像については、既存の関連計画や、現在検討中の「人口ビジョン・総合戦略」などと整合を図るとともに、特に旧町エリアにおける急激な人口減少を視野に入れて、地域の生き残りを移動面から支援することを念頭におきます。また、形成計画における生活交通づくりの基本的な考え方は、「三次市地域公共交通総合連携計画」の考え方を踏襲することを基本とします。基本コンセプトは「みんなで守りみんなで育てる 地域（ふるさと）の公共交通」です。

③必要な事業や実施主体の検討 では、本市の地域公共交通の現状や課題を踏まえて必要な事業や実施主体を検討します。これについては資料3の6ページに、6つの案を要約しております。

④数値目標や評価手法の検討 では、利用率等をもとに数値目標を設定するとともに、計画事業が着実に実行され、かつ効果が出現するようにPDCAの仕組みを検討します。その際、各事業は勿論、形成計画自体も見直しできる仕組みとします。

⑤スケジュールの検討では、形成計画に掲げた計画事業の実施スケジュールを検討します。

そして、⑥とりまとめでは、上記までの検討結果を、形成計画（素案）として編集・とりまとめを行います。3)の形成計画の検討につきましては11月から1月を予定しております。

4)パブリックコメントの実施は、形成計画（素案）について、広く市民に意見を求めるもので、市ホームページ、または広報等でPRを行っていく予定です。これが2月の上旬を予定しております。

最後に、5)形成計画の策定ですが、これは2月から3月、年度末までに行うように計画をしております。以上で追加点についての説明を終わります。

それから、今後の交通会議の開催時期についてご説明します。

予定としましては、年度末までに3回から4回程度させていただければと考えております。まず、ヒアリング調査を9月から11月の予定で実施させていただくのですが、この中間報告としてみなさんに書面協議のかたちで、進んでいる状況などを具体的にお示しできればという風に考えております。そして、ヒアリング等のニーズ把握が終わったくらいの時期、11月の終わり頃になるかと思いますが、交通会議を1度開かせていただいて、どういう課題が出てきたなどの整理を一緒にさせていただく予定です。そして、年が明けてから、素案がある程度固まってきた段階で皆さんのご意見をいただく機会を設けます。そこでの意見等を反映したものでパブリックコメントを実施して、その結果、三次市の交通会議としての計画が策定された時点でもう一度、皆さんのご意見をいただく機会というのを設けます。よって、今の予定では、交通会議は書面審議を含めて4回程度になると考えております。

続いて、形成計画の必要な事業や実施主体の検討に関係して、現状の交通手段のみでなく他の手段も含めて検討を行うことを踏まえて、地域未来研究所の田中さんより、他市の地域公共交通について、情報提供をいただきます。よろしくお願いいたします。

（地域未来研究所）

それでは資料5を用いて説明いたします。1枚目にある図は、いくつかの公共交通モードを2つの切り口で分類したものです。縦軸は、利用者が特定なのかどうか、横軸は各モードがどの程度の人数を運べるかを示しています。例えば、グラフの右上にある鉄道や路線バスは、いろんな方が利用できて、多くの人数を運ぶことができる乗り物であり、逆に左下のマイカーは、特定の方で、少ない人数しか乗れない乗り物であることを意味します。その上のタクシーは、マイカーと同じ人数ですが、いろんな方が乗れる、このような見方です。

ここで、三次市の状況を考えますと、鉄道や路線バスはもちろんのこと、コミュニティバスやデマン

ド交通、過疎地有償など、既にいろいろなモードが運行されています。コミュニティバスは「くるるん」、デマンド交通は三良坂町や甲奴町で運行され、過疎地有償運送はニコニコ便が該当するなどです。そのため、事例の紹介では、これら既に運行されているモードに対して、特徴があるものとして6事例選び、ご紹介させていただくことにしました。その一覧が、図の下にある表になります。続いて、それぞれの概要についてご説明いたします。

2 ページ目をお開きください。こちらは広島県内の大竹市で運行しているコミュニティバス、「こいこいバス」です。三次市の「くるるん」と同じタイプのバスになります。運行概要ですが、運賃は200円、毎日運行しており、ルート図がありますが、片道約30分程度の路線になっています。これが、「くるるん」とどう違うかといいますと、住民が計画策定から深く関わっている点が特徴的だといえます。資料の枠内にある分科会、これが住民の組織になりますが、運行開始までに11回もの会議を重ねて、ルートやダイヤなどの検討をされました。また、運行開始時にはポスターを貼る場所を交渉したり、広報車に乗りウグイス嬢になられたりもしています。今は運行が始まっていますが、運行後も、年に1日あるバスの日に、乗車して車内でティッシュを配ったりと、利用促進にも関わっておられます。こうした結果、利用者は年々伸びている状況です。

続いて、3 ページ目をお開きください。こちらは広島市内の「やぐちおもいやりタクシー」です。定時路線の乗合タクシーで、一部の市民バスと同様のものです。運行概要は、運賃が300円で、平日運行となっています。車両は、写真の通りワンボックスです。この導入地域では、高台の団地で高齢化も進んでおり、住民は生活の足で困っていました。そこで、地元のタクシー会社に協力をお願いし、タクシー会社も賛同されて、導入が実現したとのこと。特に特徴的なのは、導入後に利用が少なかったそうですが、これに対して国や市、また学識経験者として加藤先生も関わられ、住民らと一緒に検討をされたという点です。こうした検討結果を受けて、また住民達も商店に運賃割引の交渉を自らされるなどの努力をされた結果、見事V字回復を成されたそうです。

続いて、4 ページ目をお開きください。こちらは岩手県内の事例で、雫石町の「あねっこバス」です。このバスは、デマンド、すなわち電話予約を行って運行するタイプで、三良坂町での運行と同じです。運賃は200円で、毎日運行されています。ルート図がございしますが、多くのルートを走っている手段です。ここで、デマンド方式は電話予約が必要と申しましたが、この予約を行うことが、利用者にとって大きな抵抗になっています。そのため、全国には、デマンド方式に変えることで、利用が減ったという例が多くございます。これに対して、「あねっこバス」では工夫され、高齢者や障害者など、電話予約が苦手な方の予約を代行するサービスを設けています。役場や郵便局、銀行、商店などでお願いすると、代わりに予約をしてくれる、というものです。またもうひとつの工夫として、予約専用の直通電話を設置されています。受話器を上げると予約センターに繋がるもので、役場など、主要な施設に設置されているそうです。こうした工夫により、デマンド方式の抵抗を少しでも和らげようとした事例といえます。

続いて、5 ページ目をお開きください。こちらは、先程と同じ大竹市の事例で、「三ツ石乗合タクシー」です。先程と同じデマンド方式ですが、区域運行、すなわち自宅の前まで迎えに来てくれるサービスになっています。運賃は350円で、週に3日、月、火、金曜日に運行されています。この事例の特徴は、先程も出たのですが、住民が主導的に運行に関わっている点です。導入にあたっては、地域に3つの組織を作られ、3人ずつのワーキングが24回、15人の班代表からなるプロジェクト委員会は6回、住民全体会議も5回と、何度も議論を実施されています。こうした取組ができたのは、この地域が熱心な地域であったためですが、市としても、ここをモデル地域とみなして制度を整え、水平展開に取り組まれている

ます。

続いて、6ページ目をお開きください。こちらは茨城県の事例で、「なかさと号」です。先程と同じく区域運行のサービスですが、「ニコニコ便」と同じく、過疎地有償運送の交通です。そのため、写真にあります。白ナンバーの車両で運行しています。運賃は300円で、平日のみ運行しています。特徴的なのは、NPOで運行されているのですが、利用しない世帯を含めて全世帯から会費を2千円徴収して、運行経費に充てている点です。この地では、「責任と費用の分担」について議論を深められており、このやり方がよいであろうと判断され、実施に繋がったものと思います。ネットの情報によりますと、恐らく平成25年の状況かと思いますが、年間の運行経費が約600万円で、世帯からの収入が86万円、運賃収入が80万円ということで、概ね4分の1がこうした収入になっています。残りは行政が支出をしているそうです。

続いて、7ページ目をお開きください。こちらは愛知県の事例で、「乗合タクシーサービス」です。このサービスは、コミュニティバスのアクセスに特化しているという特徴があります。この地にはコミュニティバスの「さんさんバス」が走っていますが、どうしてもバスが入れない地域などがあり、こうした地域におきまして、乗合タクシーが「さんさんバス」のバス停まで運ぶということをされています。運賃は100円ですが、「さんさんバス」に乗ると、バスと合わせて100円になり、実質、タクシーの運賃は無料になります。また、予約制のサービスですが、帰りの予約は、「さんさんバス」の運転手にいうと無線でタクシーに連絡し、バス停まで迎えに来てくれるそうです。便利な仕組みですが、これは、バスとタクシーとが同じ事業者ということで実現できたようです。

以上で、[資料5](#)の説明を終わります。

(事務局)

ありがとうございました。

(会長)

今、事務局から説明がありましたが、いくつかございましたので、最後に説明がありました[資料5](#)のところからお話を聞いていきたいと思います。色々な全国の事例のご紹介があったわけですけど、このことに関してご質問、ご意見等はございますか。

(委員)

今、田中所長からご説明があった中で、大竹市の二つの事例はまさに地域未来研究所さんもがんばっておられると思いますし、私も何度かおじゃまさせていただく機会があったんですけど、導入された時は確かに市民の方とかが議論をされて、検討をされて作り上げられたと思うのですが、現在に至るまでの乗車の推移ですね。「こいこいバス」であるとか、三ツ石の乗合タクシーでずっと継続しているのか、どのように推移しているのか、あるいは問題点はこういったところがあるのか、そういったところを教えてくださいたいです。

(地域未来研究所)

「こいこいバス」は、市民の皆さんに運行前に関わっていただき導入を果たしましたが、運行が開始された後も、定期的に分科会メンバーが集まり、利用促進などに関わっておられます。また、途中でダ

イヤが変わったのですが、その際の検討や、定期券などを導入する時なども集まって、議論をされています。利用者数の動向については、運行を開始した平成21年度は便あたり4.7人の利用でしたが、その後利用者は伸びており、平成26年度は便あたり7.7人にまで増加しています。また今年度に入っても、さらに増加していると聞いております。

そして、「三ツ石乗合タクシー」に関しては、利用者数の水準は大きく変わっていませんが、最近、徐々に減少しているようです。そのため、地域住民の皆さんが、利用者を増やすように検討をされている、と聞いております。以上です。

(会長)

私の方からお聞きしたいのですが、今回の6ヶ所とも、いわゆる成功事例というふうに思えばよろしいですか？

(地域未来研究所)

成功を、利用者が増えたと捉えるのであれば、必ずしも成功事例とはいえないと思います。今回はそれよりも、各モードの中で特徴があって、三次市の計画づくりで参考になりそうな事例を選ばせていただきました。

(会長)

三次市としては、交通をひとつに統一するのか、特にいろんなものを組み合わせるのか、ということこれから考える必要があります。いろいろ地域事情がある中でございますが、いずれせよこの地域の足をどう確保していくのか、というのが一番重要かと思っております。

今一度、**資料3**の6ページを見てみますと、課題というか論点は何なのかを書いてあり、おさらいをさせていただければと思います。計画を作る中で考える事として、現在ある路線バスの再編・見直しが必要であるわけですが、(ア)ではこれについて考えます。右側にかかれた進め方ですが、系統ごとに評価を行って、それぞれ必要性とか採算性について議論するということだと思っております。この中で「くるるん」についても考えていきます。

それから(イ)の市民バスですが、これはどちらかという地域の交通手段、イメージ的には支所まで出てくるような交通手段というイメージで、今はタクシーでありますとか、乗合タクシーや市民バスなどがありますが、これらをどうしていくかということ計画するというものであります。それから、3つめは交通空白地帯への対応。これも少し意味が似ているところがあります。市民バスとして支所単位の中で回していますが、なかなかバス路線としては定期的に運行できないようなところの中でも少しニーズをくみ取って、お年寄りを迎えに行くようなものも含めて、どうすればよいかについて考えます。それから、地域公共交通の利用促進に関する事業。やはり利用者もそれなりの取り組みといいましようか、覚悟といいましようか、意欲をもってやっついていかないと、なかなか今の時代、公共交通が維持できない、という所がございます。この部分についてどうやったら上手くいくか、というところ。それから、住民自治組織との連携・協働の仕組みですが、市内の中には、かなり住民自治組織が主体となってやられることを企画しているようなところもありますので、そういった中での関わりとか課題なども考えるのだと思います。それから最後がJRさんとの連携。せっかくターミナルもできましたし、それから特に福塩線沿線の位置づけでありますとか、川地地域の方とか、そういったところをバスと鉄道と

の使い分け等々もあるのではないかなと思います。これが主な所です。

それから元に戻りますが、**資料5**はそういった意味では最終的に我々の地域でモデルになるようなものを一揃いお示ししたものと思います。ご意見がありましたら、いかがでしょうか。

(委員)

お願いしたいことと、こういう調査をしたらどうかという提案をさせていただきます。

まずお願いですが、1～6の事例はそれぞれのモードの例になっています。今回は公共交通網形成計画をつくるということで、三次市の中でそれぞれのモードをどのように組み合わせてシステムとしての交通網を作り上げるかと、いう計画であろうと思います。大竹市は合併してはなく単独市制で実施されていて、「こいこいバス」と三ツ石は、幹線とフィーダーという位置づけになると思うのですが、もうちょっと広域合併した事例で、例えば路線バスと乗合タクシーと交通空白地帯対策とソフト事業が組み合わせられたシステム、というか交通体系として動いているような事例もあるといいと思っております。

例えば、京丹後市は合併して、路線バスの運賃が、長いものでは1,000円超えていたものを、検討を重ねた結果、一路線200円で均一で実施して、運賃収入の減収になりますけど、利用者増えて全体として財政負担が減ったというケースもあります。中国管内では、倉敷市も広域合併して路線の再編をしています。こうした全体のシステムとして動いているところの事例も紹介していただいたら、なお三次市の参考になるのではないかと思います。

(会長)

では次回に、こうした事例紹介をお願いします。

今日は広島県からもお越しいただいておりますが、広島県内でどこかうまくいっているところはありませんでしょうか。

(委員)

利用者が減少する中では、いかに効率化するかという議論に入りがちですが、そうすると縮小する一途になってしまうので、やはりいかに需要喚起をするかは必ず避けて通れないと思いますので、ぜひそういう視点を盛り込んでいただいて、乗りやすい公共交通、活用しやすいバスということで計画を作って、それを皆さんに実行していただきたいと思います。

三次市の場合、県北の中核なので、市の中の移動だけでなく、外からの利用もみられます。あるいは広島方面とか都市間の移動も課題だと思っています。三次市の周辺から三次中央病院等への移動ニーズというものもありますので、広域の中での三次市の役割も捉えていただきながら周辺の市町との幹線の部分もお忘れ無く、計画を作っていただければと思います。

(会長)

続いて、運輸局からもお越しいただいておりますが、(交通手段の)安定供給というか、エリアで色々事情がある中で、(計画を作成しても現状に)フィットしていなくて自由度が低いという声を聞くこともありますが、そうならない方法等がありますか。

(委員)

まずは公共交通網形成計画ということで、これからの交通のマスタープランとなる計画をたてていく

という中で、まちづくりと連携させていただき、交通だけを意識していこう、という交通ありきのまちづくりではなくて、今後まちをこうしたいから交通をこうするという計画をたてていただきたいというのが第一にあります。

その中で国の制度は使い難い、というご意見もいただくことはあるのですが、それについてはぜひ忌憚なくおっしゃっていただいて、むしろ市の計画がこうだから、国の制度を変えて欲しいというような発想でいただいた方が、我々もそういうご意見があれば中央に対して制度改正を検討してくれ、とかいう意見もあげることができますし、場合によっては既存の制度の中でも「こういった形であれば実現できますよ」といった別方向からのアドバイスも可能だと思っております。こうした視点も入れながら計画をたてていただければと思っておりますので、よろしく申し上げます。

(会長)

ありがとうございます。どうしたいかというのをしっかりと決め、相談するということですね。その他いかがでしょうか。

資料4に戻っていただきますと、地域の特性とかそういうところを色んな団体にヒアリングしていきながらニーズ把握をしていこう、というところがございます。その中で**資料3**の6ページにあるような項目の検討を進めていこうということでございますが、いかがでしょうか。

(委員)

細かい質問が1点と、あとはこういった調査をして欲しいという要望をいくつか言わせていただきたいと思えます。まず、3ページの③-2の地域団体等ヒアリング調査で、元気むらさくぎは、「ニコニコ便」を運行されているので必要かと思うのですが、地域活性化プロジェクトチームGAMBOを選ばれている理由はこういったところなのでしょうか。

(事務局)

地域団体等ヒアリング調査ですが、元気むらさくぎは有償運送を実施しているということで、問題点なども含めて聞き取りをさせていただくことを考えています。そして、地域活性化プロジェクトチームGAMBOは、市内のNPOの話を知りたいということで色々と調べたところ、若い方が関わられているということで、「利用者」というふうには直接つながらないかもしれないのですが、次世代の地域づくりの担い手といった見方からもご意見をお聞きしたいということで入れさせていただいております。

逆に「こういった所もあるよ」というのも教えていただければ、付け加えることもしたい、と思っておりますので、今回は前述の二社を挙げさせていただいております。

(委員)

ありがとうございます。続いて、こういった所を特化してほしい、という所が1ページ目の基本的な考え方に関わるのですが、①～⑤でだいたい考慮されていると思うのですが、高齢化が進んでいって免許を保有されている高齢者の方が増えている中で、事故件数自体は減ってはいますけど、高齢者の方が関わっている交通事故は増えているという状況がありますので、やはり交通安全という視点も取り入れたら良いのではないかと思っております。

それから、前回の交通会議で免許返納者に対するアンケート調査のクロス集計というものを報告させ

ていただいたのですが、今回の調査の中で、その後、免許を返納した方に対するアンケート調査等を実施していただいたらありがたいと思いますし、場合によりまして私が直接行ってデータを提供しても良いと思います。こちらは、平成25年度から27年度まで、前回の連携計画に盛り込まれた事業で具体化された一つの事業でもあるかと思しますので、検証したり、今回の計画に盛り込んでいくという意味でこうした免許返納者に対する調査を行っていただきたいと思っております。

それから、2ページ目の②に交通特性の整理がありますが、鉄道、路線バス、市民バス、市民タクシーというかたちで公共交通とありますが、やはり一般乗用のタクシーも地域にとっては重要な移動手段、公共交通と言っても良いと思うので、一般乗用のタクシーの状況等も調査していただいたら良いのではないかと考えております。路線バスで出られて帰りはタクシーを利用する、という状況もございます。そういったタクシー事業の状況等もありますし、併せて福祉有償とか福祉部分の交通サービスの提供も意識していければいいと思っております。網羅的にそういったところを拾っていきたいと思っております。

あとは交通施設の状況では道路網・鉄道網というのがあがっていますが、おそらく直接市の中心部に出てくるのではなくて乗換をして出てくるシステムになると思っておりますので、結節点のハード面の状況等もみておく必要があると思っております。

それから3ページのところに市民等のニーズの把握、③-3に民生委員というのはありますが、先ほど三次布野線の報告の中にもあったとおり、通学ニーズとか保護者の意識だとか、学校関係ということが公共交通のニーズとしては少なくないと思っておりますので、こうしたニーズも捉えたら良いのではないかと考えております。

あとはサングリーンやCCプラザとかの商業施設がありますが、先ほど「やぐちおもしろタクシー」という広島市郊外の団地の事例の紹介があったのですが、このタクシーを利用した人と買い物を連携して施策を行っています。帰りの乗合タクシーの運賃を商業施設が負担するという方法です。これでしたら庄原市の東城地域でも備北交通さんとか商工会が関わって実施されている例もありますが、そういう商業施設でのヒアリングというか現状調査とかニーズ調査もあればいいと思っております。

あと、先ほど広島県の方もおっしゃっていたように、広域のニーズ。その中には観光のニーズも入るだろうと考えておまして、備北交通さんが三次ワイナリーに行くような路線とか、チケットを販売されたりしておられますが、路線バスで観光に行かれるニーズとしては一般の生活利用よりは小さいとは思いますが、せっかく形成計画を作るということで網羅的に調査できれば良いのではないかと考えております。

だいぶ要望したので全部できるかはお任せしたいと思っておりますが、こういったところを押さえていただきたいと思っております。

あと、これから9月以降ヒアリング等あると思うのですが、できれば私も都合が合えばご一緒させていただければ有り難いと思っております。事務局の方でスケジュールがたちましたら、委員の皆さんにも提供していただいて、自分や交通事業者さんとか行政の方とかで一緒にヒアリングに参加して、情報共有したりとか、そこで議論するなどでもいいと思っております。

(事務局)

高齢者の免許返納に関してなのですが、今年までの予定では3年間の実施なのですが、今後どういふうに進めていくか、同じような制度で継続していくのかということも、協議の段階になってくるかと思うのですが、おっしゃったように今そういった制度を利用された方がどういう状況になっているか

というのは必要であればお調べするということになるかと思えます。

交通特性とかヒアリング調査ですが、できる範囲と言いますか、広げすぎてどうしても結論にもっていけなくなってしまう、ということになっていけけないので、また精査しながら足される部分があればヒアリング等も行っていくように協議をさせていただきたいと思っております。

(会長)

この点に関しては、先生と個別に調整をお願いします。その他、ご質問ご意見はありますか。それでは、最後に、いくつか事務局の方から報告事項がございます。

(事務局)

今日お配りしている資料の方には「その他」は2点しか書いておりませんが、全部で4点ご説明させていただきます。

まず、三江線全線開通40周年式典についてですが、8月30日の日曜日にJR三江線の浜原駅で記念式典を開催する予定がございます。記念列車『江の川号』が運行されるということで、それが江津駅を出たものが浜原駅でセレモニーを行って、また浜原駅から三次駅に運行するという流れなのですが、それにあわせて記念式典やテープカットを行うようなイベントを予定しています。裏面になりますが、三江線まつりとして式典に先立ちまして当日の11時から14時まで浜原駅のすぐ近くにあります浜原隣保館で、ステージイベントとして神楽をやったり、ゆるキャラとの写真撮影だったりとか、フォトコンテストの作品とか懐かしの三江線写真等の展示を予定しております。お時間が許すようであればぜひご参加いただきたいと思えます。

続いて、同じく三江線の活性化協議会というものがあまして、そちらで三江線沿線の観光PRもかねて宝さがし企画を実施しています。結構全国でもされている自治体があるようなのですが、三次エリアから安芸高田エリア、邑南町、美郷町、川本町、江津市と三江線沿線のエリアで何軒かのお店などにヒントを置かせていただいて、そのヒントで秘密を解いて、その結果からキーワードを出して応募していただくと豪華賞品がもらえるというイベントを11月の末まで実施しております。大人がやってもおもしろいと聞いておりますので、もしご興味のある方がいらっしゃいましたら、よろしく申し上げます。

続いて、別紙で「三次駅周辺整備事業の状況について」という資料をお渡ししていると思うのですが、そちらについてご説明します。

(委員)

建設部長の上岡でございます。三次駅周辺整備事業の状況についてご説明させていただきます。

三次市では市の玄関口であるJR三次駅を中心に「公共交通機関の結節・拠点機能」、「観光情報発信機能」、「コミュニティ機能」を強化して、人々の交流と賑わいの創出による中心市街地の活性化をめざして、三次駅周辺整備事業を進めてまいりました。主な事業といたしましては1期事業（平成18年度～平成22年度）で十日市コミュニティセンター建設、三次駅西駐車場の暫定整備を行っております。2期事業（平成23年度～平成27年度）といたしましては高速バス、路線バスの乗り継ぎの連携強化のために交通センターを整備しております。2点目は国道183号改良事業（4車線化）に併せて駅前広場を再整備、JR三次駅舎建て替えを行っております。3点目といたしましては観光地域情報の発信、交通情報の提供、バス利用者等の交通スペースを確保するために三次市交通観光センターを整備しております。4点目といた

しましては、鉄道で分断された南北を結ぶ安全な歩行者動線を確保するために南北自由通路、及び中原踏切の拡幅を行っております。

次に、公共交通機関の結節・拠点機能についての整備状況でございますが、交通センターにつきましては今年の5月18日にバスセンター機能移転を行い、すべてのバスが乗り入れを開始しております。JR三次駅につきましては、今年の2月28日に新駅舎の供用を開始してその後旧駅舎の解体や、ホームの上屋の工事を行って6月はじめにJRの施行を完了しております。駅北広場につきましては、今年の4月18日から供用を開始しております。広場内のロータリーの外周部分にはタクシーと一般車の乗降場を配置しております。広場中央には自動精算機による20台分の駐車場を設けております。南北自由通路につきましては、25年の3月に供用を開始しております。駅西公衆トイレにつきましては、現在工事を行っておりますが、9月末の完成を目指しております。トイレの構成でございますけど、男子女子及び多目的トイレと、駅のホーム外からも利用できるトイレも設けております。中原踏切の拡幅につきましては、8月末の完成に向けて現在工事を行っております。

観光情報発信機能につきましては、観光情報発信拠点として整備した三次市交通観光センターですが、備北交通(株)に指定管理をしていただいております。1階には観光案内所、待合所、交通案内所、売店があります。観光案内所につきましては、昨年の4月から三次観光協会が入居されて業務を行っておられます。待合所は昨年の交通センターの暫定供用の際から利用しております。交通案内所と売店につきましては、今年の5月から備北交通(株)によって運営されております。建物の2階には飲食コーナーと多目的室があります。飲食コーナーにつきましては6月からたむ商店三次駅前店がオープンしております。多目的室は昨年の4月から一般利用を開始しております。

コミュニティ機能につきましては、十日市コミュニティセンターを十日市自治連合会に指定管理をしていただき平成23年7月から供用を開始しております。十日市コミュニティセンターの西側にあります三次駅西駐車場につきましては備北交通(株)に指定管理をしていただきまして、今年の4月から料金ゲートの運用を開始しております。なお、中原踏切に隣接した箇所の駐車場整備を現在行っておりますが、9月の末に全面供用の予定としております。

それから、三次駅前の完成イメージ図をつけております。次のページには主な事業経過、その次にはA3の三次駅整備事業の全体計画図とスケジュールを書いております。年度別にどんなことをしたかという、先ほど説明しましたものを図示したものであります。以上です。

(事務局)

続いて4点目です。資料はございませんので、口頭だけで失礼いたします。石見エクスプレスの休止についてです。現在のところ、三次市を経由して東京駅まで夜行バスが1日1本走っており、これは中国JRバスが石見交通と共同で運行されていますが、石見交通の共同運行が困難となり、中国JRバス単独での運行も困難であるため、9月11日以降は休止するという報告がありました。休止についてはすでに公表されていますが、三次市では1日あたり3人程度の乗車があり、年間にすると千人くらいの乗車がある路線なので、継続していただけるように要望しているところです。しかし、津和野から東京まで運行する全国でも一番距離の長いといわれる路線ということで、一社で運行されるのが難しく、なかなか担い手がないため休止が決定しているようです。情報提供ということで報告をさせていただきます。報告としては以上です。

(会長)

以上報告事項ございましたが、ご質問はございますか。

先ほど、議事の2の調査の方法につきましては、この会議において頂いた意見を踏まえて修正しつつ、調査としては開始させていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、最後に事務局から連絡をお願いします。

(事務局)

本日はありがとうございました。次回の交通会議は書面協議というかたちでヒアリング調査等の中間報告をさせていただく予定にしておりますので、よろしくお願いいたします。以上です。

(会長)

それでは本日予定しておりました議題をすべて終えました。次回は書面協議となりますので、ご協力をお願いします。委員の皆様におかれましてはお忙しいところありがとうございました。

以上で第2回三次市地域公共交通会議を終了いたします。ありがとうございました。

以 上